WASEDA UNIVERSITY

Waseda University
Visiting International Scholars Conference

外国人研究者シンポジウム
—早稲田大学の研究・生活環境

Hosted by:
International Office & Office of International Research Promotion
Waseda University
早稲田大学国際部国際課・国際研究推進本部 共催

14 November 2008

パネルディスカッション報告

パネルディスカッションでは、早稲田大学の研究・生活環境に関する状況や提案について議論しました。まず、会場の皆さんに質問し、個々の端末から投票していただきました。檀上に投影された結果を受け、会場とパネリストの双方向で議論が進められました。

まとめとして、主に以下の６つの大学への要望が指摘されました。

1.研究者同士、場合によっては家族ぐるみのつながりをもてる機会を増やす

2.宿泊施設の充実

3.身元保証人を大学として行う

4.研究室、実験施設の利用しやすい環境の整備

5.教員とのマッチングをしやすい環境の整備

6.情報環境の整備

【文中敬称略】

【モデレーター】

福田耕治（早稲田大学国際研究推進本部副本部長）

【パネリスト】

・外国人研究者

エルアミール、ニリー　カメル（外国人研究員、エジプト）

ガンドリー、デビッド（外国人研究員、アメリカ合衆国）

談蓓芳（交換研究員、中国）

李墨（客員講師、中国）

・受入教員

弦間正彦（社会科学総合学術院　教授）

小柳津研一（理工学術院／ＧＣＯＥ実践的化学知教育研究拠点　准教授）

・国際研究推進本部長　堀口健治

・国際部長　大野高裕

●外国人研究者パネリスト紹介

（ガンドリー）私は現在スタンフォード大学の博士過程におりまして、日本文学を学んでおります。私の専門分野は元禄時代の文学で、井原西鶴の研究などをしております。早稲田には２年在学しておりまして、2009 年６月末まで在籍いたします。

（李）北京から留学生で参りました。早稲田にはかれこれ 12 年、修士から博士、それから助手もやらせていただいて、今は客員講師ということでやっております。

（エルアミール）博士課程２年目です。政治科学の勉強をしています。エジプトではアジア研究をしておりました。日本には研究員として昨年 10 月より来ております。今年度いっぱい、こちらでお世話になります。

（ガンドリー）２年間にわたって滞在しています。非常にいろいろなことがあり、面白かったです。大都市に住むのが好きで、交通手段もいいですし、安全だということもあり、東京の生活にも満足しております。１年目は少し問題があったのですが、それはそれで良かったと思っています。

（李）私も１です。もちろんいろいろ問題点もあるのですが、日本の文化にあこがれて日本に来たわけですから、全般的には満足しております。

（エルアミール）１を選びました。私自身も日本の生活に満足しております。日本に来る前に、実際に考えていたことが実現できていると思っています。

（弦間教授）研究者一人で研究を進めるのか、共同研究者が早稲田大学にいて一緒に進めるのかによっても多少違うと思います。受入教員としては、訪問研究者の受入時期が重なる際は、なかなか個々の人に時間を割けず共同研究を行えません。この点が困るのかなと思います。生活環境の面では宿舎はあるのですが、最近は宿舎数が足りず、長期滞在ができない場合に不便に感じているように思います。研究室も最近では確保できないような状況がありますので、それは不便に感じているのではないでしょうか。

（会場から）アジア研究の修士課程におります。日本には長く住んでおります。寮に住んでいますので、今のところ問題はありません。しかしながら、アパートの方に移らなければならないとなると、非常に厳しいものがあります。物件の探し方、言葉の問題、契約、保証金など非常に複雑です。ぜひ大学にも支援していただきたいです。

（会場から）早稲田大学が提供している宿舎は非

常に良い所なのですが、スタッフの中に全然英語ができない方もおられます。国際組織ですので基本的に英語ができない人がいるというのは驚きです。また、家電の表示や取扱説明書が日本語であるということがありますので、難しく、使いにくいです。また、英語でのレストランや映画館の情報が、あまり提供されていないと思います。

（会場から）スウェーデンから来ております。プリンターがもう少し提供されればと思います。今はコンピューター・ラボまで行き、自分の紙を持ち込んで印刷するシステムです。しかし研究者は頻繁に印刷する必要があります。よって、煩雑で、不便です。

（会場から）私は電気通信の方の勉強をしておりまして、その研究分野の関係上、数学や物理といった他分野の勉強をする必要があります。しかし、他分野での単位の交換が非常に限定的です。自分としては、単位が認められるとありがたいです。ダブル・ディグリーの制度、特に単位認定制度を広げていくべきではないかという点を指摘したいと思います。

（会場から）ハード面では特に理工系の実験施設、特に新しい大学院の方での実験施設の不足を指摘したいと思います。他大学との連携、協力で利用できるようにならないでしょうか。ソフト面では大学院事務所、国際課等の事務所間の連携、リンケージがやや弱いのではないかと思います。更に、留学生相互間のコミュニティというか、情報のチャネルとなるような場が必要ではないかと考えます。

（会場から）資格の承認の確認が遅いということがあります。アプリケーションについては、オーストラリアにもう一度持っていって、そしてビザの受け取りをしなければならないということ、パスポートが、実際に私が出発する前日に着いたということがありますので、こういった手続きをもう少し早めに、１週間ぐらい早めにやってもらえるようになるといいと思います。

（会場から）（大学院生）外国人の場合は恐らく

JASSO（日本学生支援機構）を検索するわけです。2006 年か 2007 年の経験でしたが、JASSO に電話したら[大学の]ホームページを見てくださいと言われました。しかし、大学のシラバスやホームページを見たら、2003 から 2004 年の古い情報もありました。そうなりますと、各大学に電話で確認しなければなりません。JASSO と早稲田、またはほかの大学との連携を、もっとうまくやってほしいと思います。

（小柳津准教授）受入側としまして、[GCOE で受け入れている研究員の]身元保証人をどうするのかということで、非常に困った経験があります。現在は、受入指導教員が身元保証人を引き受けているということでやっています。しかし、大学として身元保証人を分担する仕組みがあると、非常に簡単だと思います。ビザの申請や宿舎の契約等、あらゆるところで身元保証人が必要です。他大の知人から伺った話なのですが、身元保証を各教員が分担しておりますと、不可抗力的な事故やトラブルが起きた場合、受入教員が対応しなければならなくなります。実際に被害が出たこともあるようです。そういうことがあると、受入教員によっては受け入れを躊躇してしまうということもあると伺っております。幸いわれわれは今そういうことはありませんが、将来そういう仕組みができますと、非常にありがたいと考えています。

（会場から）（大学院生）友人で、国費の奨学金で早稲田大学に申し込もうとしたら、科目履修生で手続きが整った状態で、結局外国人登録証がないと受け入れないという問題がありました。残念ながら、国費の奨学金というのは向こうの政府の奨学金なのに、早稲田大学の科目履修生は受け入れないという状態になってしまった。そういうケースはたまたま聞いた話で、ほかの学生もこの中に百何人ぐらい入ると思うのですが、外務省としてはビザに対してはカテゴリーを分けているのですが、簡単に出られる国もあれば、出られないケースもあるので、ぜひそういう外務省の対応も改善していただけたらと思います。

（李）日本にはもう随分長くいますので、割と何でも当たり前のように思ってしまう点もあります。結婚した際、妻もちなみに早稲田の留学生で、縁結びの神様は早稲田ということで非常に感謝していますが（笑）、入管で非常に細かくチェックが入るのです。当時、妻はいったん帰国して、また家族滞在という名目で来るという状況でした。入管からは、収入、アパートの種類、揚げ句にこういう狭いアパートでやっていけるのかというような質問まで出ました。早稲田には随分いろいろな方面でサポートしていただいていると思います。

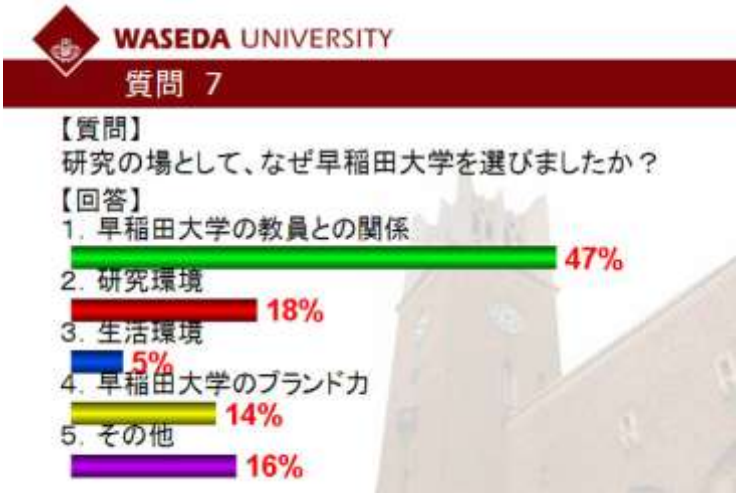
（エルアミール）二つだけ簡単に。一つは、私がいただいた奨学金については当然推薦状が必要でした。日本の大学のウェブサイトを調べて、どのような大学があり、実際にどの教授に接触すればいいのかということを確認するだけでも時間がかかりました。二つ目の問題は大した問題ではないのですが、早稲田大学の身分の分類の仕方についてです。私は外国人研究員です。この身分ですと、学内のさまざまな活動に参加できないこともあります。

（ガンドリー）私が直面したのは、銀行口座の開設の障害です。最初はある日本の奨学金を頂いていました。その奨学金が振り込まれる日本の銀行口座が必要でした。しかし、私が新宿で試した銀行支店の窓口ではどこでも、ここ数年間新宿で外国人数が増えていて、銀行口座を悪用する人がいたので、私が外国人登録証を入手するまでの６カ月間は口座開設ができないと言われてしまいました。新宿外で口座開設をしようとした場合には、私はその近隣に住んでいるわけではないので、支店で口座開設ができないと言われました。幸いにもこの問題は国際課の担当者の支援で解決し、一つの銀行の支店で口座開設ができました。しかし、正直言って、かなり失礼な態度をされたこともありました。私は、ここは銀行なのだから敬語を使ってくれてもいいのではないかと思いましたが、普通の話しぶりをされました。一時は、口座を開設できず奨学金を受け取れないので、本国に帰らなければいけないのかと思いました。

（会場から）もう日本には５年ぐらいいます。私ではなく、家内が直面した障害です。来日当初あまり日本語を勉強していなかったため、全然ほかの人と交流ができませんでした。そこで、早速日本語を勉強しようと考えました。しかし、来日した時期は、日本語学校、早稲田大学の日本語学科は既に開講時期を過ぎていました。そのため時期的にどこにも受け入れられないという状況でした。もっとフレキシブルな日本語クラスのシステムをつくっていただきたいと思います。

（会場から）私は早稲田の日本語教育研究科に行き、どういったコースがあるのかということをいろいろお伺いしました。そのときに、新宿にある日本語コースが日本語で書いてある紙をいただきました。漢字に振り仮名が振ってあったので、読めないことはなかったのですが、複雑でした。新宿内で日本語を学ぶコースの方法が小冊子で、英語で出ていればと思いました。

（しんじゅく多文化共生プラザ石川所長）新宿区では、先ほどもお話ししたように、「生活スタートブック」というのを、今日本語だけではなくて、４カ国語で作ろうとしております。そういうものがあれば、今のようなこともなくなるのではないでしょうか。それから、新宿区では、外国人登録の際に、生活情報誌というのを配っています。先ほどもご紹介しましたが、何々をするためにはどうしたらいいのか、子供の教育にはどうしたらいいのか、生活をしていくためにはどうしたらいいのかなどを、10 種類ほどのテーマに分けたものです。4 カ国語で作ってありますので、もし区役所の方にいらっしゃれば、それをご利用いただけるとよろしいかと思います。



（堀口常任理事）教員の研究内容等について、もっと英語で発信すれば、正確に早稲田にはどういう研究者がいるのかということを示すことができると思うのです。教員がどういう研究をしているかを正確に知ることで、皆さま方研究者が早稲田に来て誤解がないようにする。情報をいかに英語で教員が発信するかということに、さらに努力をしなければいけないと思っております。私どもはまだ不十分だと思っております。

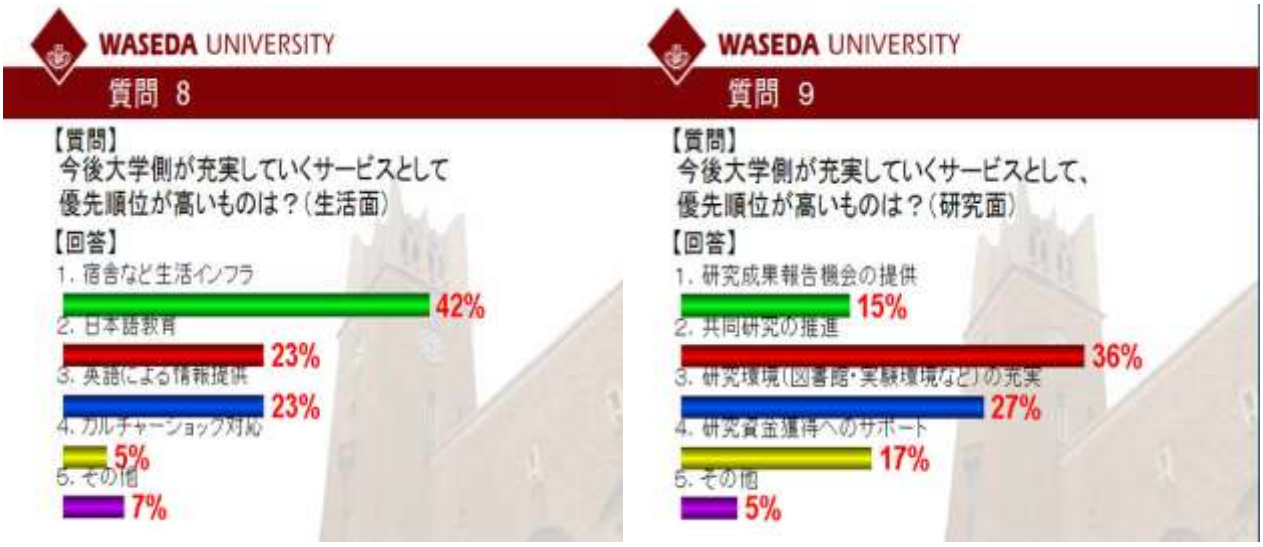
（大野国際部長）早稲田大学の教員との関係というのが一番多いということは、今の早稲田大学の情報発信状況から考えますと、海外からの研究員の方々と早稲田大学の教員とが、個人的に関係を持っているということで来られていると思います。しかし、今堀口先生のお話にもありましたが、早稲田大学の教員がどういった研究をやっているのかということがもっと分かる形が、より望ましいだろうと思います。本学で研究を希望する海外の研究者からお問い合わせがあった場合に、例えば、私ども国際部の方で、受入教員の紹介までやらなければいけないと思います。今までは個人的な個人対個人の関係でした。しかし、今後は来られた先生方と早稲田大学という組織間の関係をつくることが必要と感じています。

（小柳津准教授）研究環境について述べます。私どものグローバル COE ですと、科学系としては、首都圏では早稲田と東大と東工大だけです。そういう意味で、グローバル COE の高い研究環境が皆さんにうまく伝わっているのかなと感じました。グローバル COE は、主に博士課程の学生さんが対象ですが、いろいろな教育プログラムを準備して展開しています。プログラムを今後うまく活用していっていただければと考えております。

（弦間教授）ここ何年かのうちに、早稲田に来る訪問研究員の方がかなり増えてきているという印象があります。そうしますと、受入教員の方としても、優先順位を付けて受け入れざるを得ない形になってきています。例えば共同研究を通じて、アウトプットが出るような研究であったら受け入れるというような基準の設定です。自己完結型の研究の場合はなかなか受け入れにくい状況になってきています。大学としても、協定校が 500 校近くありますので、早稲田大学の研究プログラムにとって優先順位の高そうなプロポーザルから採択する、すなわち、共同研究を研究活動の中心に据え、戦略的に考えていくような時期に来ている気がします。数を増やすことも重要であり、研究者に対しては区別してはいけないということも同時にはありますが。

（エルアミール）日本の教員の方々との接触は難しかったです。もちろん、早稲田大学については前から

よく知っておりました。私の本属であるカイロ大学の方におきましても、吉村作治先生との共同研究がありました。従って、私の場合はさほど難しくはなかったとも言えます。受入教員である深川先生が、私が日本に来たときに最初の指導教授をしてくださり、講義を行っていただきました。こういった交換プログラムがあったわけです。よって、私の場合が早稲田を選んだ理由は、受入教員の存在というわけです。



（会場から）早稲田には[外国人研究員の]受入教員への補助金が一部あるかと思います。しかしこの補助金はうまく使われていないと思います。実際に、受入教員の方はどのように使えばいいかよく分かっていないようです。従って、会食に使っていただいたこともあります。それはそれで非常に良かったのですが、ただ、私はもっと、[研究に対する]支援が欲しいわけです。早稲田大学の、そして早稲田大学以外の方々の協力を得て、私の研究を進めていくための支援をいただきたいと思います。ここ[日本]でいろいろなコンタクト先を確保するということは、ほかの国に比べて難しいです。もう少し、小さな交流の場や、食事会の設定で協力をいただければと思います。外国人の研究者が、こういった形でも日本の関係者と接触ができるようにしていただきたいです。【補助金は】そのために使っていただきたいと思います。

実際に私の住んでいる早稲田の宿舎は非常に良いところです。しかしながらどのような人がご近所さんなのかが全然分からない。非常に驚くべきことなのですが、実際に外の人と会う機会が何もないということがあります。例えば宿舎のロビーでお酒が飲めるようになれば、金曜日の夜にスナックを持ち寄って、いろいろと交流を行うということができると思いますので、それは助けになる気がします。

（司会）２の共同研究の推進が必要だというのが一番多くて 36%ですので、この点について伺ってみます。

（ガンドリー）研究室で仕事をしているということになりますと、恐らく社会的にも孤立した状況になりますので、何らかの形で支援が必要だと思います。社会的にもいろいろと結びつきができるということ、

日本人や外国人と結び合えるようなことが必要だと思います。

（李）恐らく共同研究というのは、科学研究の場合は非常に必要になってくると思いますが、自分の分野、文学研究ではどちらかというと個人でやっていくという特徴が強いような気がします。共同研究というのはどのように推進していくかというのは、私はちょっとぴんと来ないところではあります。

（会場から）私の経験では、共同研究を企業と結ぶのは、大学側の契約のペースはかなり遅いです。研究はもちろんほかの研究科、特にアイデアの交換、グループ・ディスカッションを通じてもっといいアイデアを発想できるのです。交通実験施設であれば、例えば、各企業の実験施設を借りるということも考慮すればいかがかと思います。大学単独で作ることはかなりお金がかかるかもしれないのですが、借りることは可能ではないかなと思います。

（会場から）今、契約に時間がかかりすぎるというご指摘がありましたが、状況次第かなということはあろうかと思います。一般的に、大学というのは非常に時間の流れが緩やかといいますか、ものすごくゆっくりでした。しかし、ようやく社会の常識に近づきつつあるのかなという印象を持っております。

質問 10「他の海外の大学の研究者受入体制で、良かった点などあれば、教えてください」

（会場から）IT 環境を改善して欲しい。特に日本は非常にブロードバンド化が進んでいる国です。ワイヤレス通信を宿舎に導入してほしいです。職場では私も妻も使っているのですが、家では同時に二人で通信を使えないということがあります【国際課注：宿舎において、ワイヤレス通信は、セキュリティの関係から許可しておりません。何卒ご了解ください】。大学院の方では IT 担当の方が週２回しかいらっしゃっていません。ちょっと画像処理関連の何かドライバが足りない等、担当の方がいれば、すぐに対応していただけるのかなと思います。IT 環境の改善を挙げたいと思います。

（会場から）早稲田大学の良い点は、最近出来た COE プログラムは若手研究生にとって一番いいと思います。また、去年からできた他大学との授業交換、他大学で授業を受けたということも、経験から言うと最も良かったです。ただし、特にドクター・コースの場合、新しい知識が必要になった場合、それに対応する体制がまだできていないかなと思います。というのは、今、大学院で行われている授業というのは、ほとんど修士課程向けなので、そういう授業に出ても、もの足りない場合が多い。改善して欲しいです。

（会場から）私は奨学金を頂いているポスドクです。今週も、日本学術振興会が行っているプログラムに参加して、日本の文化についてのレクチャーを受けました。非常に分かりやすかったです。外国人からすると、日本の文化に適応するというのがとっても重要な課題です。日本で生活する、日本人の方たちと、うまくやっていく、ということは非常に重要です。われわれがもう少し日本の文化を理解できるように、文化の側面を重視した無料のセミナー、例えば、どういったものが日本人と生活していく上で重要なのかとか、日本文化の問題とかのセミナーを開講していただければと思います。

また、われわれ研究員たちが仕事をできる場というものを与えていただけると、外国人研究者という身分でも働ける場というのを与えていただけるとありがたいと思います。そして、われわれの生活というものがいい経験にさらになっていきますし、生活力もつくと思います。

質問 11　そのほか、質問やご意見など

（会場から）私の体験は非常に恵まれたものであり、ホスピタリティ豊かに受け入れていただいて、日常生活も、また研究者としても恵まれていると思います。ただし、家族を連れてくる研究者たちには子供がいる人もいます。その場合、家族のメンバーは多少孤立してしまうというようなことがあるように思います。ですから、例えば他の研究者の方で、家族同伴で来ていて、子供がいる人の名前のリストとかを何か提供されて、お互いにネットワークできればと思うのです。私自身は研究者として他の研究者との交流を楽しむことができています。しかし、私のパートナーはそのような仲間のネットワークというのはありません。やはり健全な家族関係があってこその研究の成功があると思います。

（エルアミール）情報をもう少し英語で欲しいです。外国人が非常に多い大学ですので、早稲田のポータル、早稲田ネットも一部のサイトだけではなく、全部英語にしたらいいのではないかと思います。そうすれば、外部から早稲田の情報にアクセスしたいという海外の学生も見やすくなると思います。また、この外国人向け、もしくは外国学生向けのハンドブックというものがありますが、例えば日本人の学生たちで英語が上手な方たちが多いと思うので、学生たちのボランティアを募って、外国人の日本生活をサポートしていただければと思います。

（李）これは必ずしも外国人の問題ではないと思いますが、早稲田の博士後期課程の学生たちとか、あるいはポスドクになられて、なかなか次の研究に踏み出せないというような状況はあると思うのです。例えばドイツの大学やアメリカの大学は、ドクターになったらある程度の授業を持たせて、そうすれば、次の研究のステップには割とスムーズに踏み出せるということがあるようです。その辺は、ぜひご考慮いただければと存じます。

（ガンドリー）細かい点ですが、共通のコンピュータールームで、もしコンピューターがつけっぱなしであれば、毎回、毎回立ち上げなくて済みます。毎回、毎回立ち上げると、インターネットをちょっと見たいだけなのに、時間がかかるというのがあります。

全体まとめ

（司会）いろいろご質問もありましたかと思いますので、それに対して早稲田大学国際部の部長というお立場から、大野先生が今日のまとめも兼ねてさまざまなご質問にお答えくださるということですので、最後のあいさつも兼ねてお願いをしたいと思います。よろしくお願いします。

（大野）本日は本当にお忙しい中、誠にありがとうございました。大変貴重なご意見をいただき、さまざまな部分で私たちはまだまだ足らないなということがよく分かりました。いただいたご意見は、ぜひともそれを生かすようにしていきたいと思っております。

一つ一つお答えする時間がないので、ある程度要約させていただき、お答えします。

一つは、早稲田大学は非常に大きな組織ですから、様々な場所で様々な仕事をしています。そのため、皆さま方にワンストップサービスがまだできていないという反省があります。ですから、そういった意味では、例えば国際部国際課の方に来ていただけたら、すべてそこから皆さんが快適な生活環境ならびに充実した研究環境を得られるような形、こういうものをぜひともつくっていきたいと思っております。取り組んではおりますが、まだまだ足らないのだなということがあらためて分かった次第です。

宿舎の関係の問題についてです。これは、やはり東京の中心にある大学ということで、非常に難しい部分です。しかしながら、今後も皆さま方のような研究者の方々を、数多くお迎えしたいと考えております。そこで、現在、早稲田駅のちょうど裏側の方になりますが、そちらの方に外国人研究者用の宿舎を作っています。来年の後半ぐらいには、恐らく 50 家族分ぐらいのものが新たにできる予定です。次回お見えになるときは、ご利用いただきたいと思います。

情報提供については、英語でなかなかうまくできていなかったということは、本当にご指摘のとおりです。今日皆さま方にお渡ししたこちらの外国人研究者ハンドブック、ようやくこれがホームページ上にアップされました。ぜひこれを見ていただいて、ここが使いにくいとか、ここが足りないなどというご意見をお寄せください。まだ、立ち上げたばかりですので、不十分な点が多いかと思います。どんどん改善していきたいと思います。ぜひともこちらをご活用、そしてご意見をいただきたいと思います。

それ以外にも大学のホームページは、ご指摘のとおり、英語による情報が貧弱です。現在、大学全体でホームページを見直しています。英語によるホームページの部分の充実も考えております。また、大学構内の標識についても、やはり日本語が中心で、ほとんど英語がないというようなことは非常に問題だという認識を持っております。学内の標識の見直しも進めつつあります。

研究者同士のネットワークをどうつくるかということについても確かにご指摘のとおりです。受け入れの先生以外と知り合うのは、難しい部分があります。今日はこの後、懇親会を予定しております。外国人研究者の先生方とは、国際部の方では年２回、外国人研究者の先生方、受入教員、関係各所のスタッフ、例えば国際部ですとか、留学センター等々のスタッフと交流をしていただく機会をつくっております。ただ、まだそれが年２回しかないということで、貧弱なのだなということを改めて思いました。

ICC（International Community Center）というものが、大隈ガーデンハウスの１階にあります。ICC では留学生、日本人学生等々、地域の方も含めていろいろな方が集まってネットワークづくりをしておりま

す。毎週のようにいろいろなイベントを行っておりますので、ぜひともそちらにお出かけください。

研究者同士のネットワーキングに関しての体制が弱いということは、今、痛感いたしましたので、何らかの形での制度を、ぜひとも急いでつくりたいという気持ちでおります。

また、身元保証人の件ですが、実はこれは既に話題になっておりまして、大学が機関として身元保証をするというようなことを進めるべく、準備をしております。そのことも申し上げておきます。

（司会）　それでは、最後に堀口副総長より、ひと言お願いいたします。

（堀口）　今日はどうもありがとうございました。大学の理事会としては、外国からおいでになる大学院生および訪問研究者のための施設を、急いで充実しなければいけないと思っています。現時点では大学院、あるいは学部の留学生のために、まずは宿舎を建てようとしております。1000 とか 2000 の単位で増やそうとしています。一方で、今お話があったように、訪問研究者のための施設、あるいはその中身がまだまだ不十分であるということも認識しております。スピードアップを図りたいと思っております。それから、大学のスタッフが十分に英語で対応できるようになるためには、職員の訓練を含め大急ぎでやらなければいけないと認識しております。

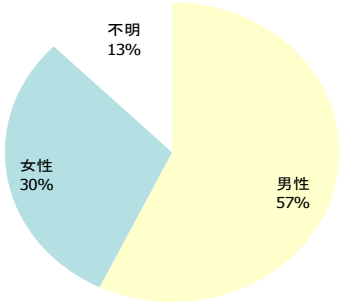
私は経済学が専門です。グローバル COE や 21 世紀 COE プログラムの中で、研究費を取ってきてチームでやる、そこに海外の方に加わっていただく、あるいはＲＡ等で採用する、という仕組みがようやく文系にも出てきました。そういう意味では、個人の教員が研究者を受け入れるというだけではなくて、チームとして支える、あるいはそこに研究資金を付けるということが必要かと思います。今日、受入教員の方の不満はあまりお話がなかったのですが、受入教員を大学がサポートする仕組みがやはりまだ弱いと認識しております。施設だけではなくて、アカデミック・スタッフが共に研究できるようなプラットフォームを、さらに強化しなければいけません。ここに理事会としては今後、大いに力を入れていきたいと思っております。今日は、本当にいろいろと有益なご意見、ありがとうございました。

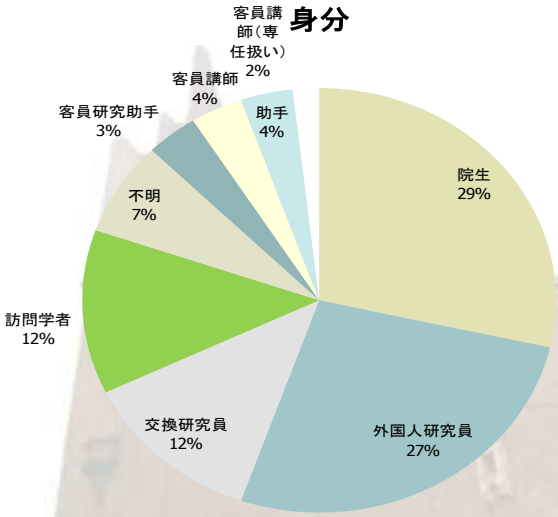
ご参考：シンポジウム参加者情報

（参加総数：７０名、うち外国人研究者・大学院留学生５６名）

WASEDA UNIVERSITY

参加者属性 ①

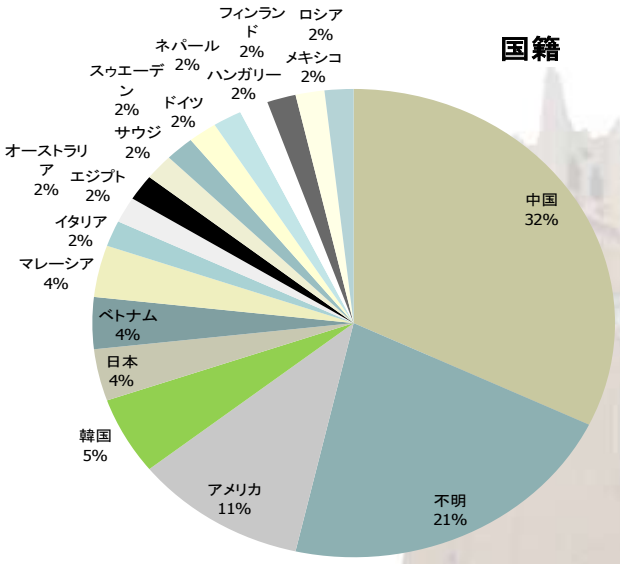




1

WASEDA UNIVERSITY

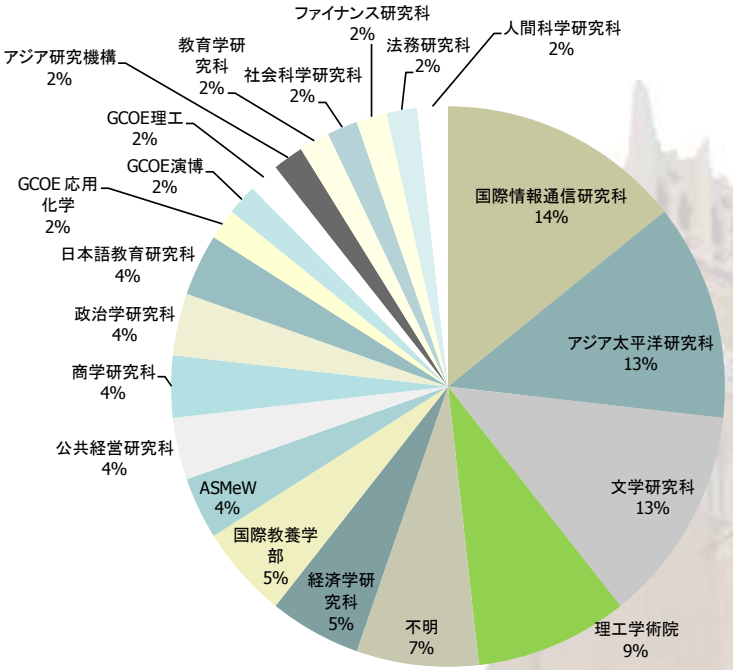
参加者属性 ②



2

WASEDA UNIVERSITY

参加者属性 ③



所属箇所

3

+